

少子化に歯止めをかけ賑わいのある宮古島を維持するため、妊娠から子育てにわたり、きめ細かく切れ目のない支援を行います。

妊婦及び胎児の健康を保持するとともに産前産後の精神的負担の軽減を図るため、妊婦健診やマタニティスクール事業を行います。

また、島外で不妊治療を希望する方に対し渡航費の助成を行います。

子どもの父母等、保護者の経済的負担については、子どもの健やかな成長を願い、出産祝い金を交付するほか、病気の早期発見、早期治療のため、こども医療費の窓口無料化を引き続き実施します。



【ブックスタート事業】

令和2年度 宮古島市施政方針

また、専門的で高度な救急業務に対応するため、より高い知識と技術を持った救急救命士の育成に取り組み、医療機関との連携強化に努めます。

生活に困窮し支援を必要とする市民のため、コミュニケーションソーシャルワーカーや生活困窮者自立相談支援員を配置し、相談や必要な助言を行うなど、一体的かつ計画的な支援を行い、自立促進を図ります。

あわせて、新たに児童・生徒及び認可保育園、認定こども園に通う3歳以上の幼児を対象に給食費の無償化を実施します。

子育て環境の整備については、幼保連携型認定こども園の整備に向けて着手します。

また、待機児童対策については、認可外保育施設の認可化や既存施設の増改築による定員拡大を図り、施設の充実に努めます。

加えて、民間の認可及び認可外保育施設の運営を支援し、保育の質の向上を図ります。

仕事との両立を支援する取り組みとしては、預かり保育事業や放課後児童クラブの運営支援、児童館運営事業や地域子育て支援拠点事業を実施するほか、ファミリーサポートセンターの活用を促進し、地域における相互援助活動を支援します。

適切な児童養育については、専門職員による相談・指導、支援を必要とする児童や妊婦等の家庭調査などを行い、虐待の未然防止、早期発見及び迅速な対応に向け関係機関との連携強化を図ります。

8 総合庁舎を核とした新しいまちづくり

令和2年度は待望の総合庁舎が完成します。

庁舎機能の集約により市民への行政サービスの効率化が図られるほか、県の合同庁舎、警察署、市消防本部など公的機関が隣接し、災害時の防災拠点、多種多様なニーズに対応できる複合施設として、より利便性の高いサービスを提供します。

あわせて、新庁舎を新たなバスの結節点とし、公共交通の利便性の向上を図ります。

新庁舎周辺地区については、島全体を俯瞰した新たな都市計画マスタープランを策定し、市民の暮らし



【総合庁舎 起工式】

子どもの貧困対策については、貧困の連鎖を断ち切るため、居場所づくりや食事の提供、生活指導や学習・就学支援を行うとともに、保護者に対しての相談、助言を行います。



【トウリパーフラ】

7 医療福祉の充実と健康長寿の推進

高齢者が生きがいを持って暮らせる環境づくりについては、住まいや医療などの生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」を深化・推進するとともに、「長寿大学」や「通いの場」などの取り組みを進め、介護予防と生きがいのための環境づくりに努めます。

おわりに

と活力を支える新しいまちづくりの拠点とします。

今年の夏には56年ぶりに東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。本市においては、聖火リレーが5月3日に実施されます。また、このスポーツの祭典には本市に縁のある選手が出場し金メダルの獲得が期待されています。同選手を始め日本選手の活躍に国中が大いに盛り上がるものと思っています。

私は、市長に就任し11年が経ちました。この間、財政基盤の充実・強化を手始めに、産業基盤の整備による地域経済の活性化、そして教育、福祉の充実に取り組んできてまいりました。

その成果として、観光産業のめざましい活性化に伴い地域経済は空前の活況を呈しています。教育においても学校統合、校舎等の重点整備、ICT社会を見据えた教育設備の整備により、教育環境は大きく改善しました。また福祉においては、子育

また、高齢者が多年にわたり社会に尽くしてきたことに敬意を表し、引き続き敬老祝い金及び記念品を贈ります。

障がい者支援については、今年も平成27年度からスタートした宮古島市第2次障がい者計画の見直しの年であることから、これまでの取り組みを検証し、共生社会の実現に向けて、着実かつ効果的な次期計画策定に取り組めます。

また、障がい児及び障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、サービスの向上に努めます。

国民健康保険については、運営主体の県と連携し、より充実した医療保険、疾病予防事業などに取り組めます。

市民の健康づくりについては、特定健診、長寿健診やがん検診など各種健診の受診率向上に向けた取り組みを強化するとともに、市民一人ひとりの健康に対する意識改革を促します。

また、生活習慣の改善を図るため、健康フェスタを開催するなど、関係団体と連携した取り組みに加えて、

て世代を支援するため保育施設を重点的に整備したことにより、待機児童が大幅に減少しています。今年も市制施行15周年の節目にあたりますが、今後は多様化する市民のニーズに応えるため、新総合庁舎の整備をはじめ、し尿処理施設の整備や高まる水需要への対応など、市民生活に密着した施策を推進するとともに、教育や子育てなどの人材育成、疾病や介護予防などのソフト事業に注力し、市民が安心して心豊かに住み続けられる島づくりに努めてまいります。

最後になりますが、市民の皆様、そして市議会議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げ、私の施政方針とします。

令和2年2月27日 宮古島市長 下地敏彦



【ロマン街道・伊良部島マラソン】